

広島市中区医師 第19回医療安全管理研修会記録

医療安全・院内感染対策研修会参加記録

[研修会実施日] 2019年8月23日(金)
[研修会場] 大手町平和ビル5F 大会議室

[参加者]

[感想・意見など]

研修会報告(サマリー)

【1】院内感染「届出基準変更後の風疹・百日咳の現状」

平成30年1月1日より風疹と百日咳の届出が変更。風疹は1)診断後7日後から直ちに届出、2)遺伝子検査を原則として全例実施、3)1例の発症で積極的疫学調査の実施へ変更となり、百日咳は1)小児定点報告から全数把握、2)診断後、7日以内の報告へ変更。

風疹の患者は7月末で2000人を超え、先天性風疹症候群も5年ぶりに3例発症。現在、昭和37年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた男性に対し、風疹ワクチンのクーポン券が配布されている。

百日咳の患者は8月4日の時点で10110人の感染者を認め、全数把握により、全容が明らかになりつつある。昨年も1万人を超えており、多くは小児患者。多くはLAMP法を使用した遺伝子検査で診断されており、保険適応。3種混合ワクチンも再販されており、予防接種も今後の発症抑制に効果が期待。

【2】医療安全「チームワークと医療安全」

実際の訴訟事例を見ながら、医療安全、特にチームワークの重要性について考える。

- 概要 1.医療事故事例 1)抗菌薬の点滴が関係した事例(水戸地裁、平成17年5月18日判決)
2)異形輸血事件(名瀬簡略式、平成17年8月2日)
- 2.チームワークと医療安全
 - 3.チームワークを支えるコミュニケーション
 - 4.チームビルディング

伝達講習記録

伝達講習実施日 平成 年 月 日()

[報告者]

[参加者]

[感想・意見など]